風流のはじめ館かわら版　第25号

編集・発行／須賀川市風流のはじめ館　〒962－0832　福島県須賀川市本町81番地4　電話0248(72)1212

風流のはじめ館

第２５号
令和６年１１月号

大人の学校が、豊かな活動の場を広げます。

はじめ館のすかがわ大人塾

10／5（土）第3回 志野流香道 香りをたのしむ

講師　藤田　宗直先生（志野流香道師範）

着物や帯、菓子の文様にみられる意匠「源氏香」の香道におけるお話を聞き、「源氏香」を体験しました。

源氏香

5つの香を順番に聞き、どの香りが同じであったか組み合わせを当てて遊びます。組香のあいだ、お香や香図の模様や言葉が組み合わさり、さまざまな景色を想像し、楽しみます。

香りを聞く

香が伝えるものを心で聞きとるということからいいます。

12（土）第4回 季の花あしらい 野の花の愉しみ

講師　金子　翠園先生
佐久間宗初先生（須賀川茶道連合会）

水揚げ法や花の自然な美しさを引き出すコツ、生けた後のケア法などを学びました。

◇蕾やもうすぐ花びらが開きそうな野草を選びます。
◇季節に合わせた花を選びます。
◇花の本数は奇数が好ましいです。
◇「花は野にあるように」という千利休の教えを大事に、自然体を重んじます。

季節の花材

野菊、藤袴、紫蘭、木賊、桜蓼など20種類の花材を使いました。

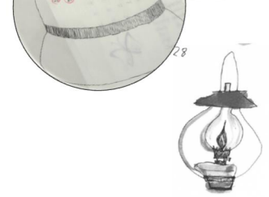
11／7（木）第1回 アドバンスクラス 愉しく、美味しく、季節の茶道教室

第２回は茶道の道具では、なくてはならない道具の一つ「服紗」の使い方やお点前の仕方を学びます。

講師　佐久間宗初先生
西間木宗紀先生（須賀川茶道連合会）

全３回講座。お茶の歴史と道具、季節のはなし。挨拶などのふるまいを学び、美味しく、抹茶とお菓子をいただきました。

11／11（月）第6回 つけぺんdeカレンダーづくり



講師　増子　史楼先生（玄粒書道会師範）

インクの量で濃淡を表現しながら、カリカリ、サリサリと自由に数字やイラストを描いて、つけペンならではの書き味を楽しみました。

31（木）第5回 雨夜の月 琵琶のしらべ

奏者　山田　寛水氏（錦心流琵琶全国一水会）

―演目―
「国船」
「白虎隊」
「花紅葉」

秋夜、「薩摩琵琶」の勇壮でダイナミックな音色と語りにひき込まれていました。

18（月）第4回 等躬忌の集い

相楽等躬　一六三七―一七一五

芭蕉を八日間もてなした俳人。問屋業を営む豪商で奥州俳壇の中心的人物。陸奥の歌枕に通じ各地に広いネットワークを持つ。芭蕉が江戸移住間もないころから親交を深めた。

須賀川の俳祖・相楽等躬の忌日である十一月十九日を「等躬忌」と称し、等躬を偲んでゆかりの地（等躬の庭・軒の栗公園・可伸庵跡）を清掃し菩提寺の長松院をお参りしました。

■ご協力団体
桔槔吟社・須賀川知る古会
須賀川ふるさとガイドの会
ＮＰＯ法人チャチャチャ21
本町町内会

展示の紹介―テーマ展 俳諧って、なに？

開催中 10/4→12/1

俳諧（はいかい）とは俳句や数人で句を詠む連句などの文芸の総称で、江戸時代においては庶民の娯楽のひとつでした。五七五、七七、五七五、七七・・と二人以上で交互に詠み続ける「連歌」のうち、滑稽な要素を主とした「俳諧連歌」のことです。

歌仙とは、五七五の長句と七七の短句を交互に三十六句続くものをいいます。その半分のものを「半歌仙」といいます。

懐紙に句を記すのには書き方のルールがあります。

半歌仙　草の戸の巻
雨考　多代女　不轉（市立博物館蔵）

▼連歌の最初の五七五は「発句（ほっく）」と言い、特に重視されます。芭蕉の「俳句」と思いがちな作品は、実際は俳諧の「発句」。「俳句」が独立した文芸となるのは明治時代になってからのことです。

言の葉

ポインセチア

仲冬の季語。和名は猩々木（しょうじょうぼく）。猩々とは中国の古典書物に登場する架空の動物です。

小春日和（こはるびより）

木枯しが身に染みる季節ですが、時折、ぽかぽかと暖かい日もあります。

赤白橡色（あかしろつるばみいろ）

薄めのくすんだ赤茶色。夕暮れ時、太陽に染め上げられた雲のような輝きが絶妙です。

お知らせ

風流のはじめ館の小正月

1/11（土）いっしょにつくろう だんごさし　こども和文化塾

お団子をまるめてみずきにさして幸せをお祈りします。

お持ち帰り用のミニだんごさしを作っておしるこもいただきます。

俳句ポスト投句募集

第二回〆切
一月二〇日です。

オンライン投句

受付期間
2024.11.30

企画展情報やイベント情報は当館公式HPをご覧ください。